

この紙のゴール: 自分の意見を、別々の理由2つと具体で支えて書ききる

お題 Should English classes be taught only in English?

英語の授業は英語だけで行うべきか。賛成か反対かを決めて、あなたの意見を書きなさい。(100語くらい)

書く前に

1. 日本語で理由を2つメモする(30秒)。英語にするのは、中身が決まってから。
2. 設計図の順に英語にする。1ブロック=1~2文。行が余ってもブロックを飛ばさない。

30秒メモ 日本語でよい。理由を2つ（ここが決まれば、あとは型に流すだけ）

理由1	
理由2	

設計図 この順に書く

1	立場 (1文)	賛成か反対かを1文で。ここで迷いを見せない。
2	理由1 + 具体 (2文)	理由を1つ書き、そのあとに場面を1つ (いつ・どこで・何が)。
3	理由2 + 具体 (2文)	1つ目と別のこと。言いかえ (便利／役に立つ) にしない。
4	譲歩と再反論 (2文)	一度認めてから、それでも、と切り返す。
5	結論 (1文)	立場をもう一度。新しい理由は足さない。

書き出し語のない行は、自分で書き出しから決めます。

書く 100語くらい 思考・判断・表現

[illegible]

読み返す 書けたらペアで交換して、この3つだけを見る

- ☐ 理由が2つ、別のことになっているか（入れかえても意味が変わらないなら同じ理由）
- ☐ それぞれの理由に、具体（場面・数・経験）が1つあるか
- ☐ 相手の言い分にふれて、そのあと切り返しているか

英語の授業は英語だけで行うべきか（発展） | モデル答案と採点

モデル 和訳なし（読み上げて型だけ確認する用）

モデルA（賛成・111語）
I think English classes should be run in English, with one exception. First, the classroom is the only place where most of us hear English at all. If the teacher moves to Japanese whenever a sentence gets hard, the hardest English is exactly what we never hear. Second, guessing from the situation is not a second-best skill. It is what we will do abroad, where nobody switches to our language for us. Some people say that a new grammar rule cannot be explained in English, and that is often true. However, an exception for the first explanation of a rule is not the same as running the whole class in Japanese.

モデルB（同じ立場・31語） ※直したい答案
I think English classes should be only in English. Because it is good for our English. We can listen to English a lot. English is important. So we should use English.

どこで差がつくか

Aは相手の言い分（文法は英語では説明できない）を認めています。それでも主張が弱くならないのはなぜか。
Aは相手の理由を認めたとえて、その理由が届く範囲を1点に絞ります（新しい規則の最初の説明だけ）。認める範囲を自分で決めてしまえば、残りは主張のまま残る—例外を1つ先に出すのは、譲歩のいちばん強い形です。
切り返しの型（発展版だけが足す1文）
・認めるのは弱さではなく強さ。and that is true で受け、However / Even so で切り返し、相手の理由が成り立たない場面を1つ出す（条件・例外・代わりの手段）。認めればなしは立場を消します。

つまづき 返ってくる答案の型（誤答例から書いた指導のことば）

理由が2つに見えて、実は1つ	「便利」「役に立つ」は同じことの言い換え。First と Second を入れかえて意味が変わらなければ同じ理由—生徒が自分で判定できます。
For example のあとが抽象のまま	For example, it is useful. は具体ではありません。「いつ・どこで・何が」を1つ。日本語で場面を言わせてから英語にすると速いです。
because でつなぎ続けて1文が伸びる	理由は First / Second で切って1文ずつ。because は1文に1回まで、と決めるだけで構成が見えます。
譲歩を書いて、切り返しを書かない	Some people say ... で終わると、相手の意見を紹介しただけになります。譲歩は「認めて→切り返す」で1セット。

評価 加点式9点（減点式にしない）

最初と最後に、同じ立場が示されている	+2	思判表
理由が2つ、別のこととして立っている	+2	思判表
それぞれの理由に具体（場面・数・経験）がある	+2	思判表
相手の言い分にふれ、切り返している	+2	思判表
通して読んで意味がとれる（細かい誤りは数えない）	+1	知技

定期テストの自由英作に移すときは内容3・構成3・言語4の10点が扱いやすい配点です（言語を減点式にすると、書く量を減らした生徒が有利になります）。

40人を回す 週1で書かせても採点で潰れないための手順

- ・30秒メモは必ず取らせる。理由が1つしか出ない生徒が机の上で見えるので、机間指導はその生徒だけで済みます。
 - ・全員を毎回添削しない。ペアで「3つの目」を3分 → 教師は理由が2つ立っているかだけを○△で見る（1枚1秒）。
 - ・記号添削は抜き取り8人／回。5回で40人が1周します。返却は、良い答案2本を匿名で映すほうが赤入れより速く効きます。
- 3つの版の使い分け 論題・書く型・測る力は3版共通で、変えているのは支援の量だけです（基礎＝理由の候補と書き出し語を全部／標準＝立場と譲歩だけ／発展＝型のみ、譲歩に切り返しの1文）。同じクラスで配り分けても、答案は同じ観点で並べて読めます。

